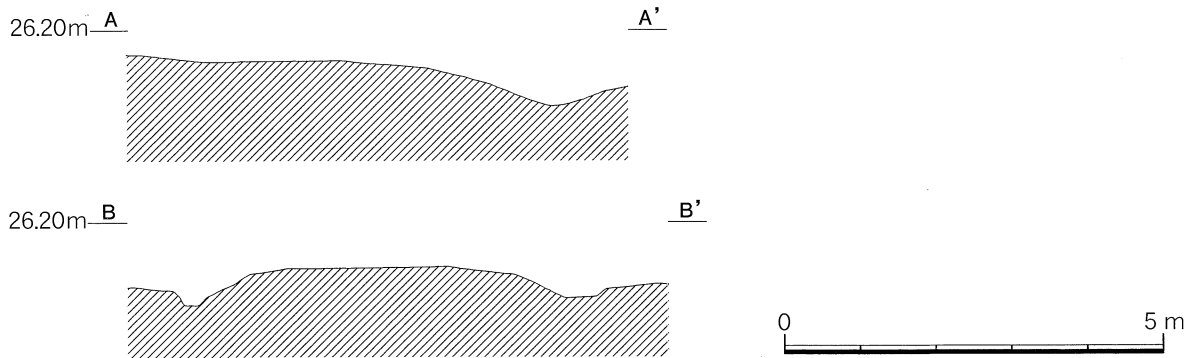
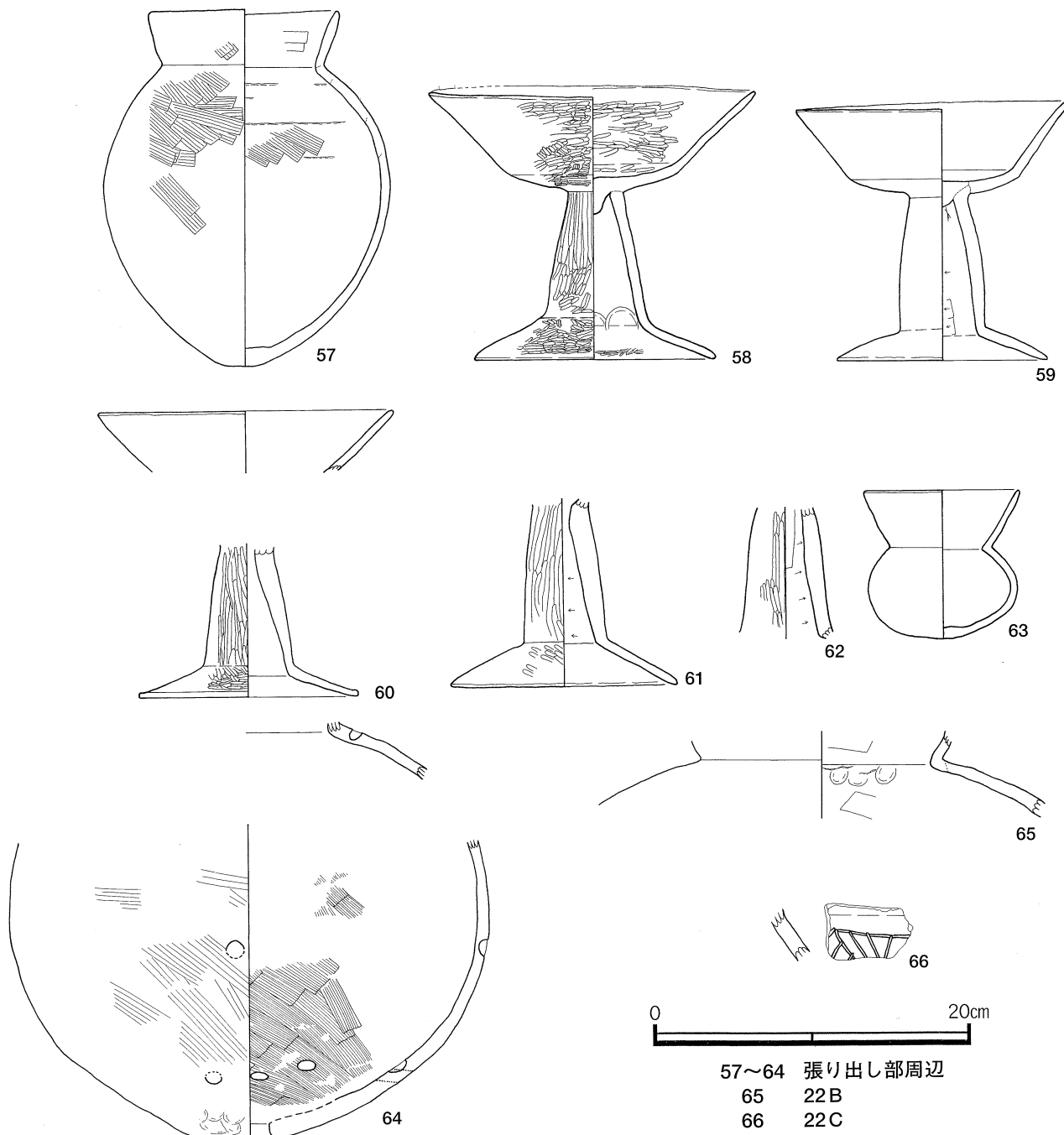


第16图 22A・22C調査区図 (1/100)



第17図 22号墳張り出し部断面図 (1/100)



第18図 22号墳出土遺物 (1/4)

第七章 結語（これまでの調査のまとめと今後の課題）

これまで、生目古墳群内における本格的な発掘調査は平成5～7年の周辺遺跡確認調査と平成10年から今日まで行っている史跡整備に伴う確認調査があり、跡江丘陵上の歴史が、解明されつつある。この他、平成8年度に宮崎大学考古学研究室によって作成された6基の前方後円墳（3、5、7、14、21、22、23号墳）とその周辺の円墳（4、8、15号墳）の詳細な墳丘測量図は古墳群の現況を把握する上で、重要な資料となったのは過言ではない。

周辺遺跡の確認調査は平成4年度に宮崎市制70周年記念事業の一つとして史跡生目古墳群保存環境整備事業が行われることとなり、古墳の範囲確認、周辺域の遺構確認のために、主に墳丘周囲や墳丘周辺の平坦地に調査区を設定した。その結果を基に基本構想、基本計画に着手した。

この調査では、平成5年に古墳群北側の2～5号墳周辺に調査区を設定している。2号墳周辺では旧3～5号墳の位置を確認し、旧3号墳の周溝内で地下式横穴墓（現1号）を確認しており、初めて生目古墳群での地下式横穴墓の存在が明らかになった。3号墳周辺では西側周溝の外側の平地で時期不明の土坑墓を確認している。

平成6年度の調査には古墳群中央部の7～15号墳周辺に調査区を設定している。7号墳西側に設定した調査区では4基の地下式横穴墓（現3～6号）が直線的に並ぶ状況で確認されている。この他、地下式横穴墓は9号墳の周囲で、9号墳側に玄室を向ける2基（現7・8号）、15号墳の南東部50mの位置で1基（現9号）が確認されている。また、円形周溝墓が9号墳の南側で1基、土坑墓が13号墳東側、南側でそれぞれ1基ずつ、15号墳の南東部50mの位置で1基確認されている。

平成7年度の調査では古墳群の南側の17～19号墳周辺、22号墳周辺、丘陵南側に広がる畑地に調査区を設定している。19号墳では周溝を確認した外、西側30mの位置で円形周溝墓と40mの位置で土坑墓を確認している。22号墳では周溝内から壺形埴輪が出土している。丘陵南側の畑地は旧39・40号墳が構築されていた位置であるが墳丘は削平されている。この畑地では弥生時代の集落が確認され、現状で集落からは1段低くなる細長い畑地に設定した調査区では断面V字形を呈する弥生時代中期の環濠が確認されている。集落部分では竪穴住居、土坑墓が確認されたが、ゴボウ収穫のための機械（トレンチャー）によって著しく破壊されており、それ以降も、遺構の破壊が懸念された。そのため、平成9、10年の2カ年でこの畑地部分の緊急調査（石ノ迫第2遺跡）を行った。その調査では竪穴住居35軒、竪穴状遺構20基、土坑33基、周溝状遺構6基、土坑墓43基、溝状遺構4条、指定39、40号墳を含む円墳周溝が5基、地下式横穴墓5基が検出された。竪穴住居を中心とする集落は中期中葉～後期後葉に営まれ、後期後葉に集落の繁栄が見られる。土坑墓群は遺構との切り合い関係から集落廃絶後から概ね4世紀中頃まで営まれたと考えられ、円墳群とそれに伴う地下式横穴墓（現10～14号）は5世紀中葉以降の築造が考えられる。

平成9年度までに纏め上げられた基本計画書により、史跡公園としての整備範囲が決定し、それを基に同年から3カ年をかけて、エリア内の用地買収が行われ、合わせて平成10年度から史跡整備に伴う確認調査に着手した。この確認調査では本格的に古墳の調査が行われ、これまでに、3号墳、4号墳、5号墳、6号墳、7号墳、8号墳、10号墳、14号墳、15号墳、21号墳、22号墳、旧14号墳、旧15号墳の墳丘及びその周囲に調査区を設定した。（調査の年次内容は頁を参考されたい）

この調査では、各古墳の規格が明らかになったことだけでなく、各古墳の時期設定を行うことができるようになった。3号墳は22号墳の墳丘形態の再検討により、前方後円墳集成編年の3～4期、その前後の時期に22号墳、それらに続いて14号墳（4～5期）、5号墳（5期）、

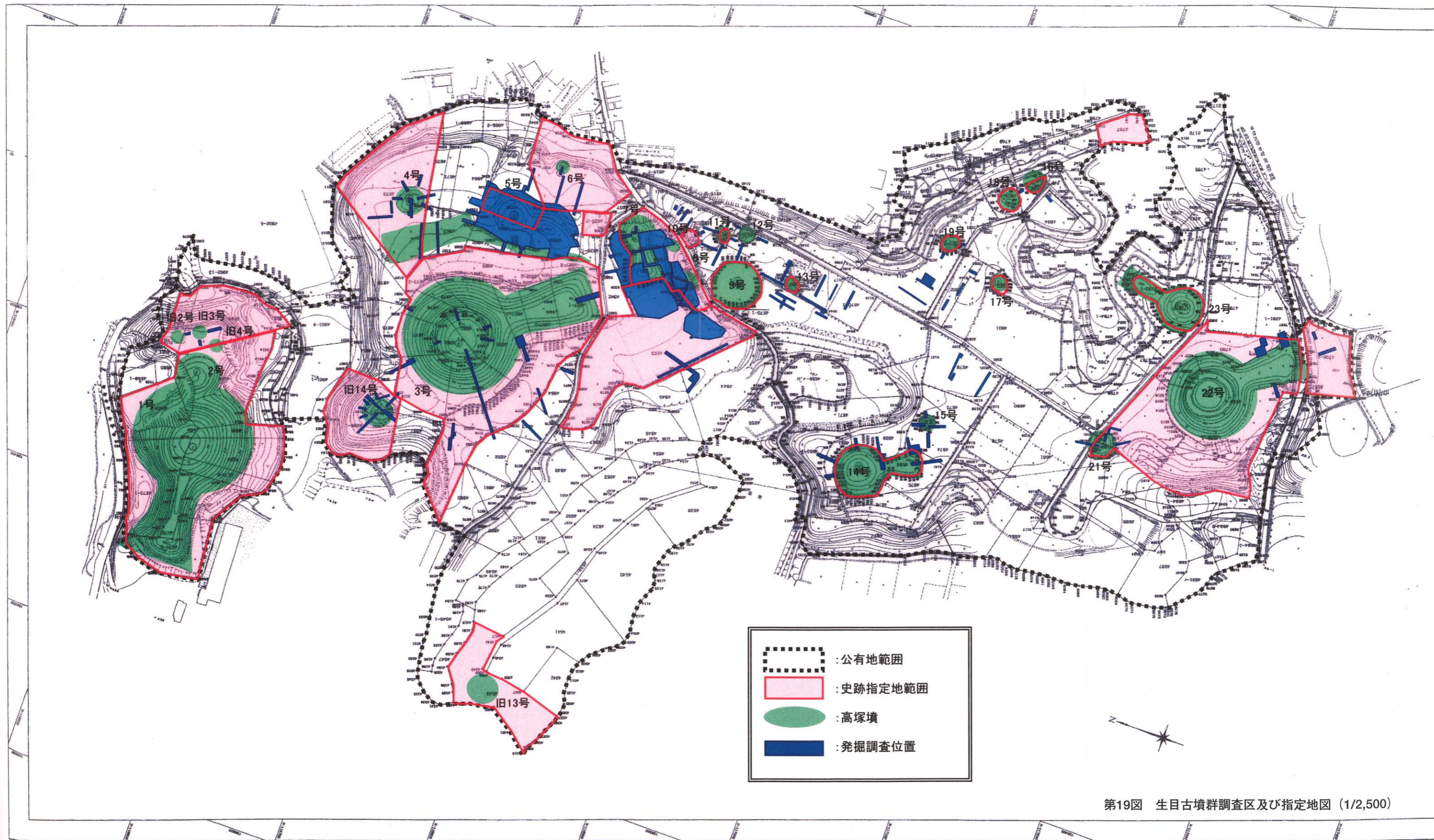
7・8号墳（7期）とそれぞれ比定でき、従来、墳丘形態からなされていた研究により示された100m級の前期古墳の存在を調査結果からも検証することができた。

新しい事実として生目古墳群を再認識させたのが、地下式横穴墓の検出である。周辺遺跡確認調査や石ノ迫第2遺跡の緊急調査においても13基の地下式横穴墓が確認され、石ノ迫第2遺跡で円墳に伴うことは判明していたが、今回の調査では、前方後円墳とも密接に絡み合うことが判明した。これまで、地下式横穴墓が伴った前方後円墳は3号墳（2、15号地下式横穴墓）、5号墳（19号地下式横穴墓）、7号墳（3～6、17、18、21、24～26、A～C号地下式横穴墓）、14号墳（22号地下式横穴墓）、21号墳（20号地下式横穴墓）、22号墳（23号地下式横穴墓）がある。特に7号墳の調査では、13基の地下式横穴墓が寄生するという数の上での驚きだけでなく、埋葬主体ともなりうる18号地下式横穴墓や、竪坑上に封土を設ける21、24号地下式横穴墓など新しい事例も判明した。これら地下式横穴墓は現段階で上限を5号墳に伴う19号地下式横穴墓を5世紀前半に、下限を7号墳に伴う21、24号地下式横穴墓の6世紀前半に置く。また、14号墳（集成4～5期）、22号墳（3～4期前半）においても地下式横穴墓が伴っており、その上限が遡る可能性もある。

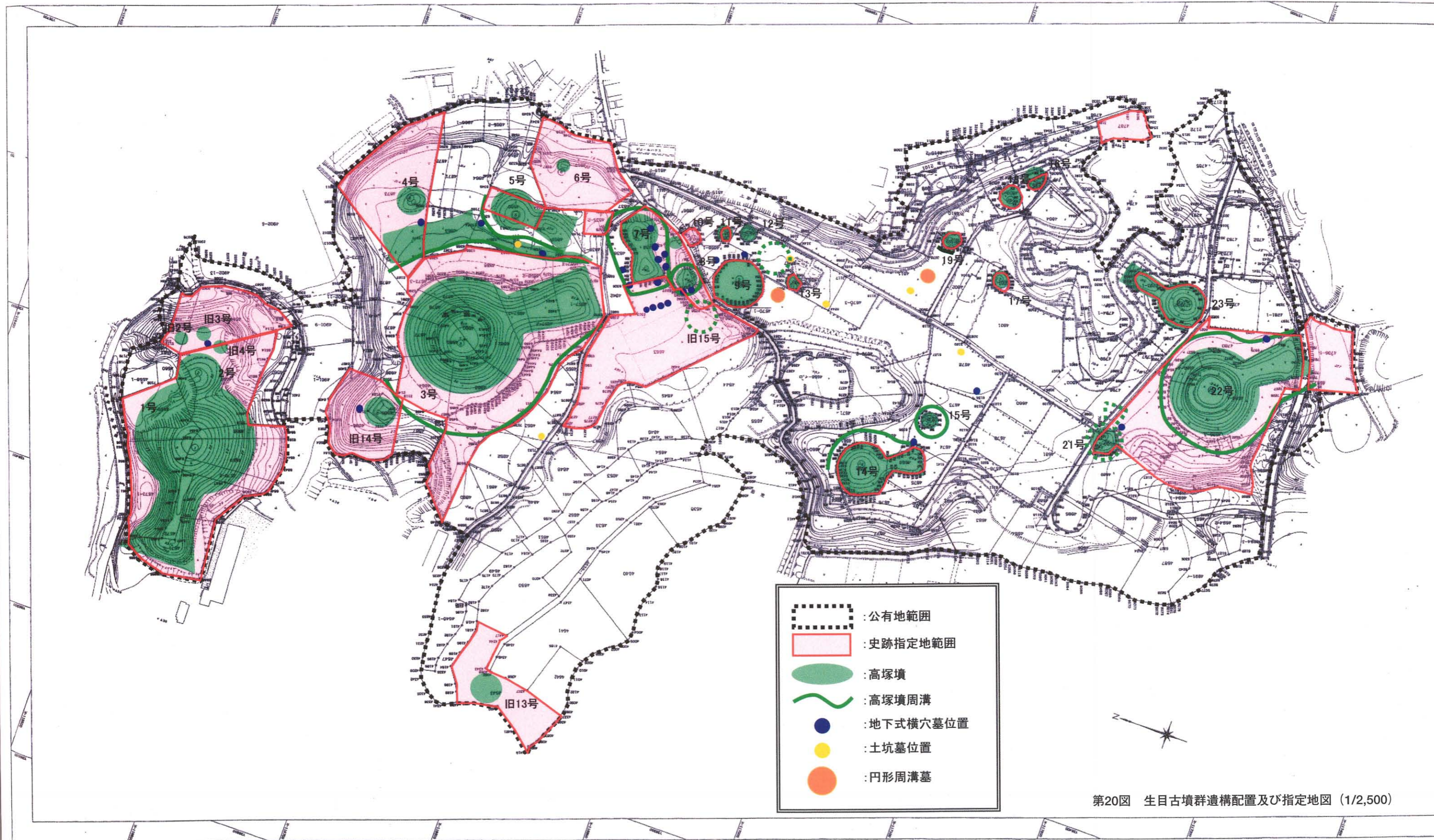
地下式横穴墓と比べ、今回の調査で検出例の少ないのが土坑墓である。周辺遺跡確認調査の段階では少なからず検出例があったものの、今回の調査では3号墳5号墳間に設けられる周堤上から1基検出されているのみである（宮崎市 2000）。周辺遺跡確認調査報告のものも含め、土坑墓内に供献する遺物に乏しく時期設定が難しい。古墳群中央部で確認された円形周溝墓2基の周辺には土坑墓が分布する傾向があり、石ノ迫第2遺跡の土坑墓群も含めて考えたうえで、それらと同世代の墓壙として現段階では位置付けておきたい。

生目古墳群ではこれまで高塚古墳を構築した範囲の外となる平地でも多くの地下遺構が検出されているが、それらの地下遺構もトレンチ状に設定した調査区から検出されており、周辺にはさらにその分布が予想される。平成15、16年度には広範囲の地下遺構を確認するため、8号墳西側の平地や9号墳周辺で地中レーダー探査を行った。8号墳南西側では、旧15号墳のものと思われる周溝や、9号墳周辺の円墳ではそれに伴う周溝、これまで未確認だった滅失円墳の周溝が確認されている。この他、22号墳や8号墳では石ノ迫第2遺跡の集落に併行する時期の竪穴住居も発掘調査により検出されており、石ノ迫第2遺跡の範囲に留まらず、丘陵全体に弥生時代の集落が広がっていた可能性は十分考えられる。

ここで、整理しなければならないのが史跡指定範囲との関係である。生目古墳群は昭和18年9月8日の国の史跡に指定され、それ以降、そのままの状態まで今日に至っている。今回史跡公園の範囲として用地購入のなされた範囲の中も、先述したとおり高塚古墳以外の平地で地下式横穴墓を中心とする数多くの地下遺構が保存されていることは明白であり、場所によっては高塚古墳の中であっても、史跡指定地外の部分がある。この生目古墳群の整備事業は、宮崎市都市整備部と共同で事業を進めており、平成16年度からは都市整備部主導により、古墳築造当時の旧地形の回復を目的として、掘割状に削平される7号墳墳丘周囲に巡っていた旧市道、農道の埋め立て工事も行われている。現段階では都市整備部、工事業者とも協議、立会いを密に重ね、地下遺構の重要性を理解していただき工事を行っているが、そういった関係が以後も保たれるとは限らない。やはり、ここで宮崎市教育委員会が最優先に行わなければならないのが、現在、不備のある史跡指定地の見直しである。生目古墳群の歴史を語る上で欠かすことのできない遺構に法的な制限の整備を行った上で、ひとつの開発ともいえる史跡公園整備事業を進めていくことが本来の姿であり、また、それこそが恒久的に遺構を守ることのできる唯一の方法であろう。



第19図 生目古墳群調査区及び指定地図 (1/2,500)



第20図 生目古墳群遺構配置及び指定地図 (1/2,500)



7号墳周辺（上空より）



18号地下式横穴墓周辺（南より）



24号地下式横穴墓周辺（上空より）



8号墳（上空より）



7号墳周溝北側（西より）



7号墳後円部南側（南より）



7号墳南側後円部上段葺石検出状況（西より）



18号地下式横穴墓検出状況（南西より）



18号地下式横穴墓周辺（南西より）



18号地下式横穴墓周辺（西より）



21号地下式横穴墓



24号地下式横穴墓封土



8号墳（西より）



8号墳遺物出土状況（墳丘より）



10号墳客土堆積状況



14e（南東より）



14号墳前方部側面葺石検出状況（東より）



22号地下式横穴墓



22号墳張り出し部（東より）



22号墳張り出し部遺物出土状況



23号地下式横穴墓



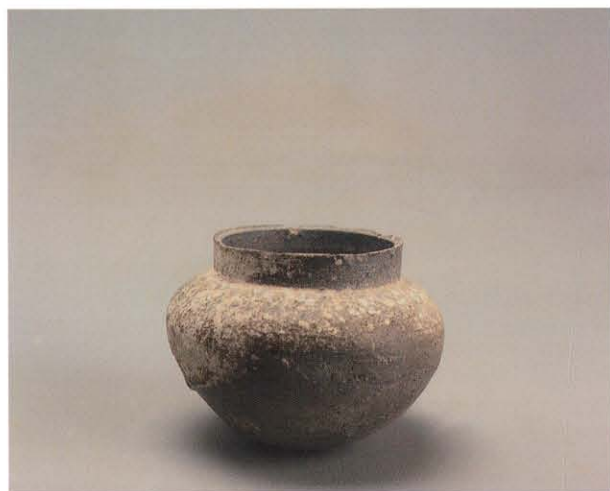
22号墳前方部側面葺石検出状況（北東より）



22 d (22号墳) 客土堆積状況



3



4



7



左手前より 8, 10, 11, 16, 17, 18



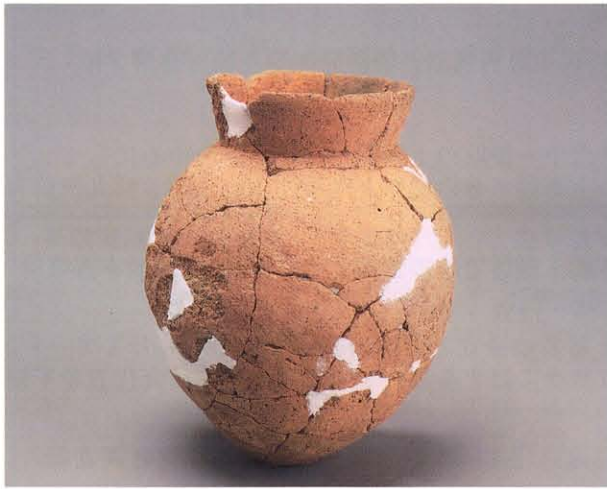
21



22



26



57



58



59



63

【参考文献】

- 1980 寺沢 薫 「大和におけるいわゆる第5様式の細別と二・三の問題」『六条山遺跡』
橿原考古学研究所
- 1981 田辺昭三 『須恵器大成』角川書店
- 1986 寺沢 薫 「畿内古式土師器編年と二・三の問題」『矢部遺跡』 橿原考古学研究所
- 1991 中村 浩 『和泉陶邑窯の研究－須恵器生産の基礎的考察－』 柏書房
- 1995 中村 浩編 『須恵器集成図録－第1巻 近畿編－』
- 1997 宮崎県 『宮崎県史 通史編－原始・古代1－』
- 1999 宮崎県埋蔵文化財センター 『上の原第3遺跡』 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第13集
- 2001 九州前方後円墳研究会 『九州の横穴墓と地下式横穴墓』 第5回九州前方後円墳研究会
- 2001 中村 浩 『和泉陶邑窯出土須恵器の型式編年』 芙蓉書房出版
- 2001 宮崎県教育委員会 『西都原13号墳（墳丘出土古墳時代遺物編）』 特別史跡西都原古墳群発掘調査報告書第2集
- 2002 宮崎県教育委員会 『西都原100号墳』 特別史跡西都原古墳群発掘調査報告書第3集
- 2002 発表
趣旨 今塩屋毅行・松永幸寿 「日向における古墳時代中～後期の土師器－宮崎平野を中心にして－」
『古墳時代中・後期の土師器－その編年と地域性－』 第5回九州前方後円墳研究会
- 2004 竹中克繁 「九州壺形埴輪研究序論－壺形埴輪の変遷とその意義－」『熊本古墳研究第2号』 熊本古墳研究会
- 2004 松永幸寿 「日向における古式土師器の成立と展開－宮崎平野を中心として－」
『西南四国－九州間の交流に関する考古学的研究－』 研究代表者下條信行
- 1996 宮崎市教育委員会 『史跡生目古墳群周辺遺跡発掘調査報告書』 宮崎市文化財調査報告書第28集
- 1999 宮崎市教育委員会 『石ノ迫第2遺跡』 宮崎市文化財調査報告書第40集
- 2002 宮崎市教育委員会 『江田原第3遺跡』 宮崎市文化財調査報告書第50集
- 2000 宮崎市教育委員会 『史跡生目古墳群－保存整備事業発掘調査概要報告書Ⅰ－』 宮崎市文化財調査報告書第42集
- 2001 宮崎市教育委員会 『史跡生目古墳群－保存整備事業発掘調査概要報告書Ⅱ－』 宮崎市文化財調査報告書第43集
- 2002 宮崎市教育委員会 『史跡生目古墳群－保存整備事業発掘調査概要報告書Ⅲ－』 宮崎市文化財調査報告書第44集
- 2003 宮崎市教育委員会 『史跡生目古墳群－保存整備事業発掘調査概要報告書Ⅳ－』 宮崎市文化財調査報告書第45集
- 2004 宮崎市教育委員会 『史跡生目古墳群－保存整備事業発掘調査概要報告書Ⅴ－』 宮崎市文化財調査報告書第46集

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせき いきめこふんぐん							
書名	史跡 生目古墳群							
副書名	保存整備事業 発掘調査概要報告書VI							
巻次								
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第61集							
編著者名	稲岡洋道							
編集機関	宮崎市教育委員会							
所在地	〒880-0805 宮崎県宮崎市橋通東1丁目14番20号 TEL (0985) 21-1836							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 。' "	東経 。' "	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
生目古墳群	宮崎県 宮崎市 大字跡 江	45201	5	31° 56' 54" 付近	131° 23' 15" 付近	15年度 20031201 } 20040331 16年度 20041001 } 20050331	15年度 5号墳 - 119m ² 7号墳 - 473m ² 14号墳 - 59m ² 16年度 5号墳 - 19m ² 7号墳 - 546m ² 8号墳 - 378m ² 10号墳 - 12m ² 22号墳 - 174m ² 旧15号墳 - 348m ²	保存整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
生目古墳群	古墳群	古墳時代	5号墳 葺石・周堤	土師器片・埴輪片				
			7号墳 葺石、周溝、土橋、後円部平坦面墓坑、地下式横穴墓(18号・21号・24号・25号・26号・27号・28号) 消滅墳	地下式横穴墓 - 土師器(壺、鉢、高坏、坏)、須恵器(甕、短頸壺) 消滅墳 - 土師器(壺)、須恵器(甕、ハソウ)	周溝内より地下式横穴墓を確認 後円部の中心に向かって構築される大型の地下式横穴墓を確認 竪坑上に封土を設ける地下式横穴墓を確認 7号墳後円部南側の周溝の外側で消滅墳を確認			
			8号墳 周溝 後円部平坦面墓坑、地下式横穴墓(29号・30号)	土師器(壺、高坏)、須恵器(甕、坏身、坏蓋、高坏、ハソウ、鉢形器台)	周溝を切る中世期の溝内より8号墳に伴うと考えられる多数の土師器、須恵器が出土 周溝内より2基の地下式横穴墓を確認			
			10号墳		古墳ではないことが判明			
			14号墳 葺石、周溝、地下式横穴墓(22号)		隅角付近の周溝外縁で地下式横穴墓を確認			
			22号墳 葺石、周溝、張り出し部、地下式横穴墓(23号)	22号墳周溝 - 壺形埴輪、壺形土器? 張り出し部周囲溝 - 土師器(壺、高坏、小形丸底壺)	前方部側面側周溝内に前方部に接する溝に囲まれる張り出し部を確認 前方部側面側の周溝外縁で地下式横穴墓を確認			
			旧15号墳 周溝・消滅墳		15号墳に近接する消滅墳を確認			

史跡 生 目 古 墳 群

保存整備事業 発掘調査概要報告書Ⅵ

2006年3月

発行 宮崎市教育委員会